

新台木品種による尻腐れ果減少で万願寺トウガラシの増収を実現

夏季高温による尻腐れ果を減少させるため、万願寺トウガラシに適合する新たな台木を選定し、尻腐れ果減少による収量増加を実現しました。

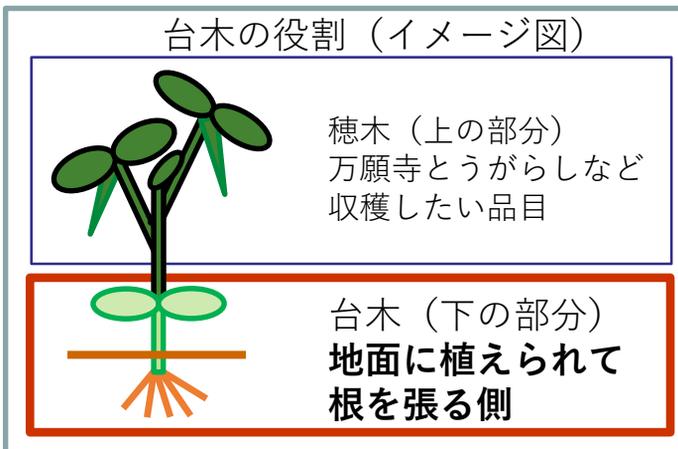
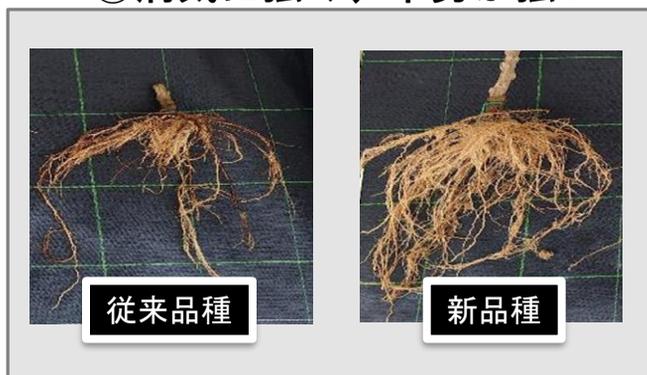
背景

- ・万願寺トウガラシは気候変動の影響で夏季に尻腐れ果が増加し、収量の低下が問題となっている。
- ・病気に強く、植物の成長を促進するために根部に異なった品種を用いる接ぎ木栽培が普及。
- ・産地導入している台木(根になる部分)品種は草勢が穏やかで、夏季の収量が安定しない。

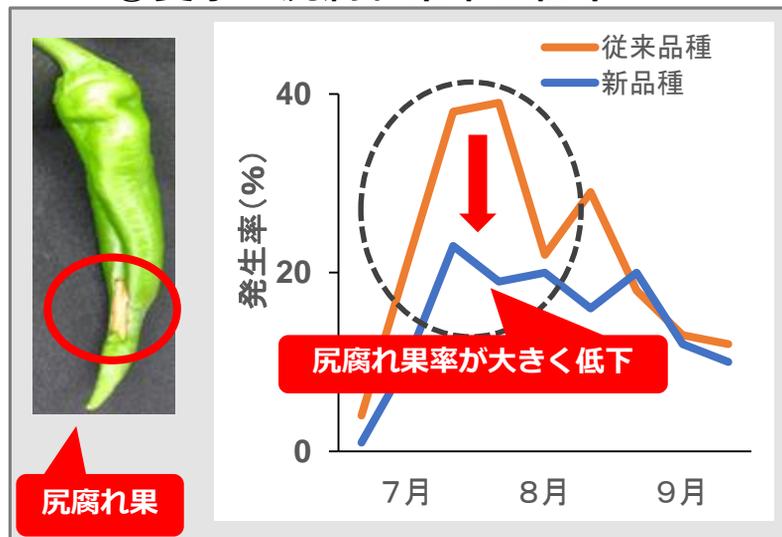
課題等

- ・高温に強い強勢台木を模索し、夏季の生育量及び収量性の向上が必要。

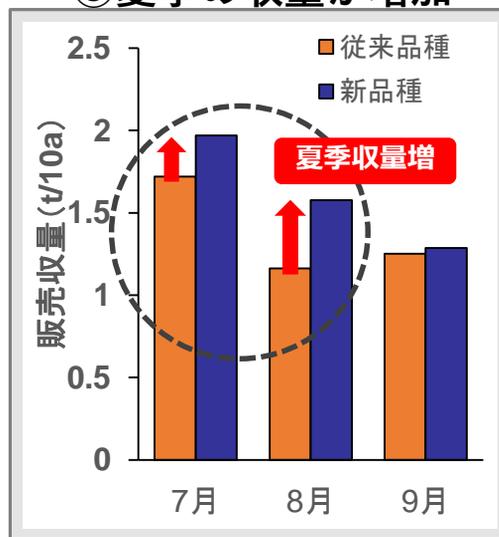
①病気に強く、草勢が強い



②夏季の尻腐れ果率が低下



③夏季の収量が増加



研究成果

- ・新品種台木の尻腐れ果減少が明らかとなり、高温期の安定生産が実現しました。
- ・従来品種台木と比較して、収量約5%、販売額約13% (10万円/a) の増加が期待できます。

今後の展開

- ・令和7年度は、府内9か所で現地実証を行うとともに、苗の供給体制を整え、来年度には新しい台木品種への全面切り替えを実施します。